

下仁田町環境基本計画（仮称）

# アンケート結果

平成 18 年 5 月

下仁田町 保健環境課

## 《 目 次 》

1 調査の概要 .....	1
2 一次集計結果 .....	2
2-1. 一般町民 ( 一般町民は第2回委員会で報告済みのため割愛した)	
2-2. 小学6年生 .....	2
2-3. 中学3年生 .....	6
2-4. 事業所 .....	10
2-5. 町職員 .....	14
3 クロス集計結果 .....	18
3-1. 性別 .....	18
3-2. 年代別 .....	21
4 異なる調査対象へ行った同等の設問の結果 .....	24
(1) 町の環境で自慢できるもの、大切だと思うもの .....	24
(2) 環境問題に対する家庭内での会話 .....	25
(3) ごみを減らすための方策 .....	26
(4) 町の環境の将来像 .....	27
(5) 活動の主体 .....	28

付属資料:自由記述

## 1. 調査の概要

環境基本計画の策定にあたり、町民等の環境に対する関心や認識、環境行政に対する要望を把握し、町の環境面の課題等の抽出を行うため、アンケートを実施した。アンケートは、一般町民、小学6年生、中学3年生、事業所、町職員を対象に行った。各アンケートの配付数、回収数、回収率、配付および回収方法について下記に示す。

表 アンケート対象者および配付・回収数・回収率、配付および回収方法

区分	対象者	配付数	回収数	回収率	配付および回収方法
一般町民	町内に在住する16歳以上の住民	1,000	886	88.6%	保健推進員による各個配付および回収
小学生	小学6年生	86	86	100%	学校にて実施
中学生	中学3年生	108	101	93.5%	学校にて実施
事業所	町内に所在する事業所等	50	32	64.0%	郵送による配付および回収
町職員	常勤職員	141	82	58.2%	庁内電子メールによる配付および回収

なお、一般町民、事業所に対しては標本抽出を行った。抽出方法は下記の通りとした。

### 【一般町民】

- ・住民基本台帳より抽出を行った。年代ごとのばらつきが生じないようにするため、年代別人口で抽出数を均等割りし、それぞれの年代ごとに無作為抽出する方法をとった。

### 【事業所】

- ・事業所一覧より無作為抽出を行った。

## 2. 一次集計結果

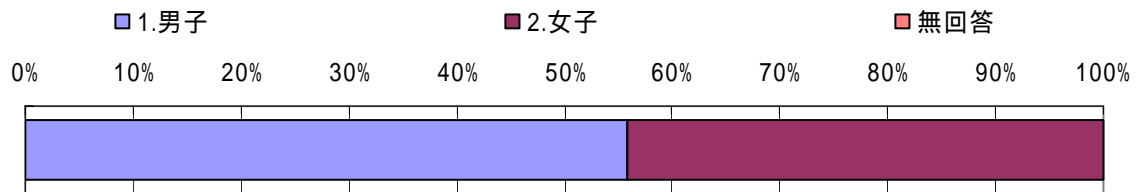
### 2-1. 一般町民

一般町民の一次集計結果については第2回委員会で報告したため、本報告では割愛した。

### 2-2. 小学6年生

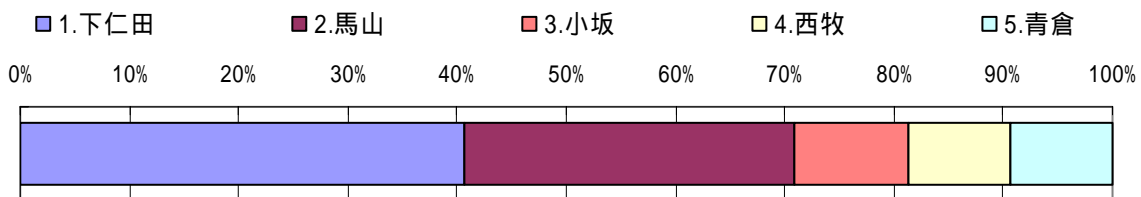
#### (1) 回答者属性

性別



- 回答者は、男子が約56%、女子が約44%でやや男子の方が多かった。

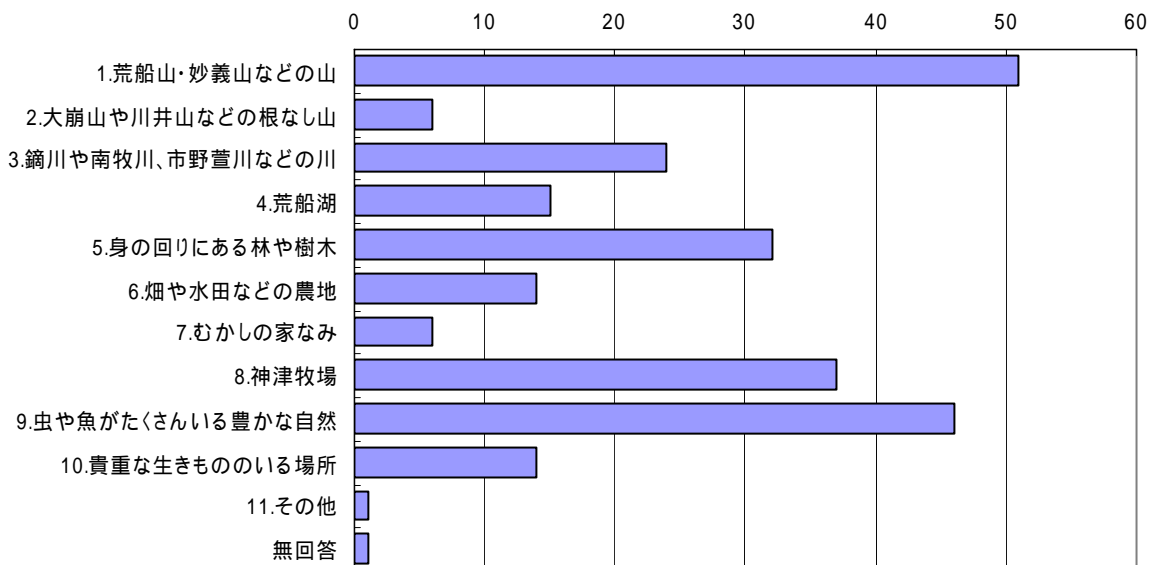
小学校



- 下仁田小学校が最も多く、約41%、次いで馬山地区約30%であった。

#### (2) 設問への回答

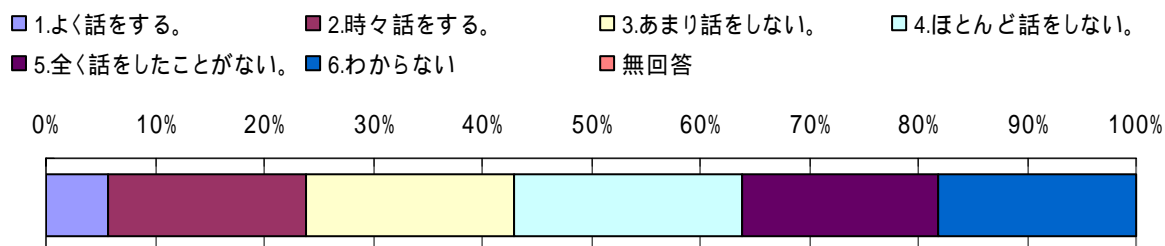
**問1** 下仁田町の環境で「いいな」と思うものを選んで、番号に 印をつけてください。(3つまで)



[ 結果概要 ]

- 最も回答数が多かったものは、「荒船山・妙義山」であり、回答者の60%が挙げた。
- 次いで回答数が多いものは、「虫や魚がたくさんいる豊かな自然」であり、回答者の約54%が挙げた。また、「神津牧場」は約44%であった。

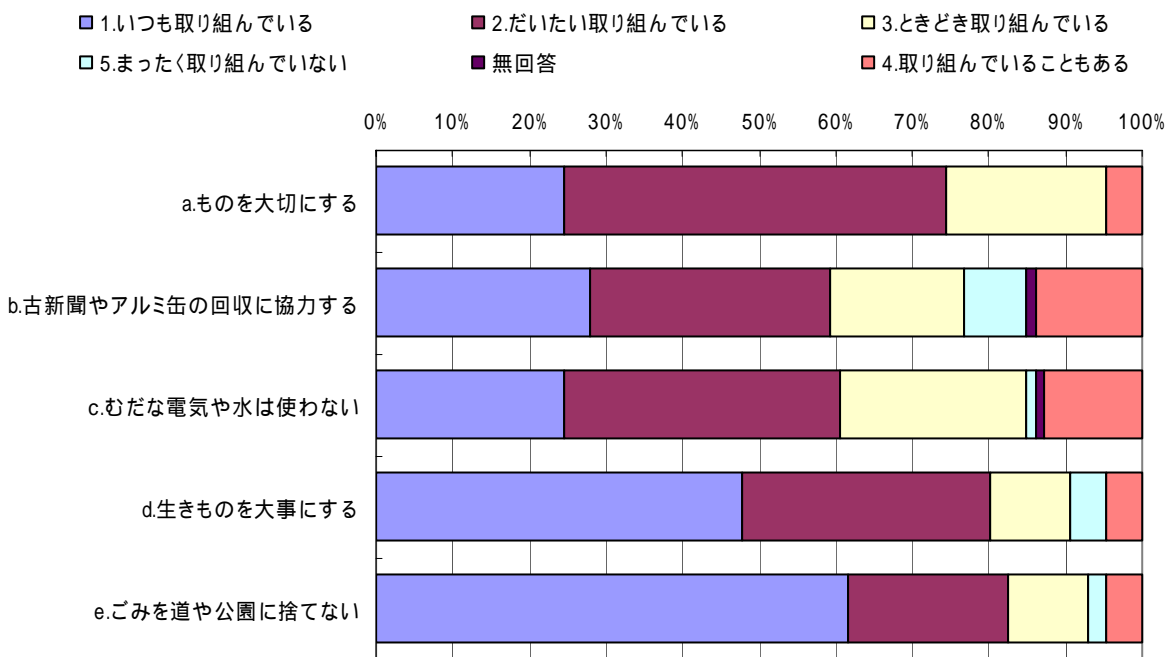
問2 あなたは、ご家族といっしょに省エネルギーなどの環境を守るための取り組みや環境問題について話をすることがありますか。当てはまるものを1つ選び、番号に をつけてください。



[ 結果概要 ]

- 最も多かった回答は、「ほとんど話をしない」であり、回答者の約26%にのぼった。
- 「よく話をする」、「時々話をする」の合計は、約29%であった。

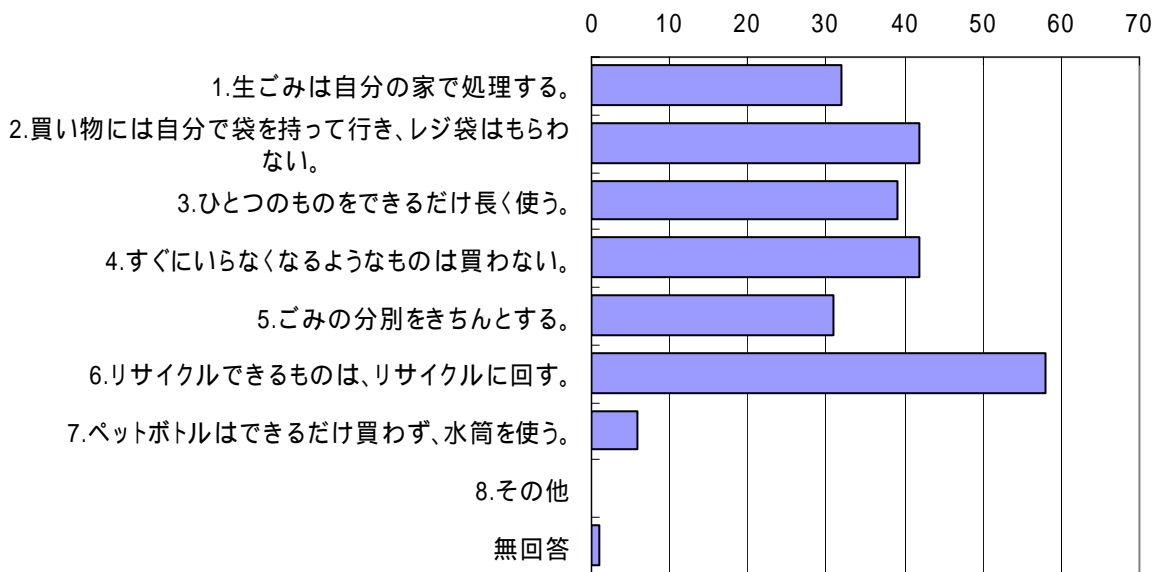
問3 ふだんの生活の中で、環境に対して心がけていることはありますか？ 下のそれぞれの項目について、教えてください。



[ 結果概要 ]

- 取り組みの度合いは項目によって傾向がやや異なるが、全般的には高い傾向がみられた。
- 「いつも取り組んでいる」、「だいたい取り組んでいる」の合計が最も高かったのは、「ごみを道や公園に捨てない」で、回答者に占める割合は80%を超えた。また、「生きものを大事にする」、「ものを大切にする」が比較的取り組みの度合いが高かった。

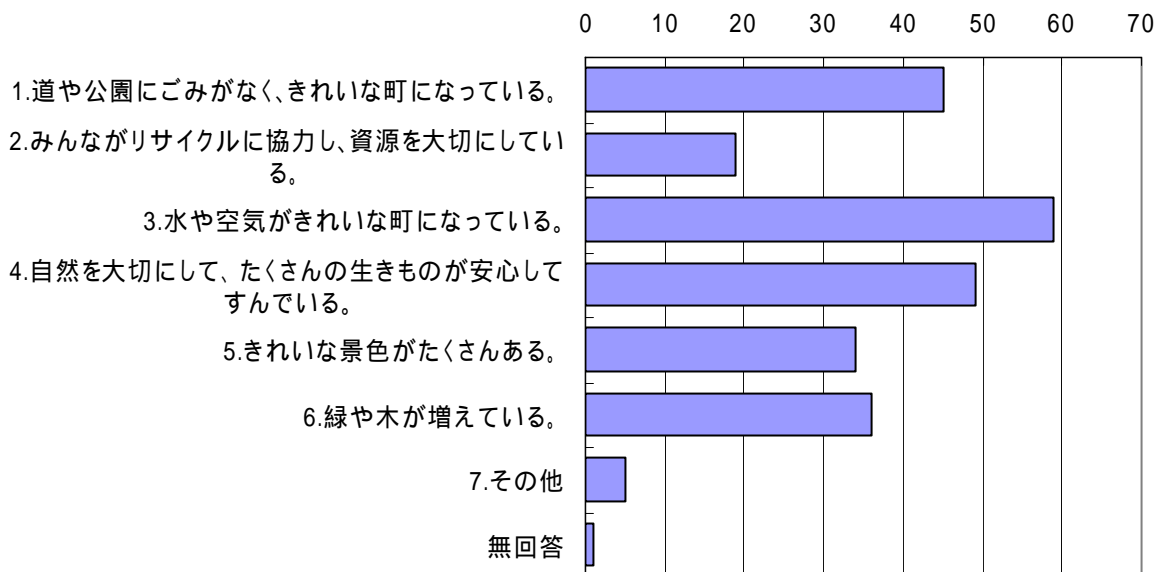
問4 町で出されるごみの処理には、毎年たくさんのお金がかかっています（町民1世帯あたり年間2万7千円）。ごみを減らすためには、何をすればよいと思いますか？（3つまで）



[ 結果概要 ]

- 最も多かった答えは、「リサイクルできるものは、リサイクルに回す」で、回答者の約68%が回答した。次いで多かった回答は「買い物には自分で袋を持って行き、レジ袋はもらわない」、「すぐにいらなくなるようなものは買わない」であり、どちらも回答者の約49%が回答した。
- 一方で、「ペットボトルはできるだけ買わない」を回答した人は小数であった。

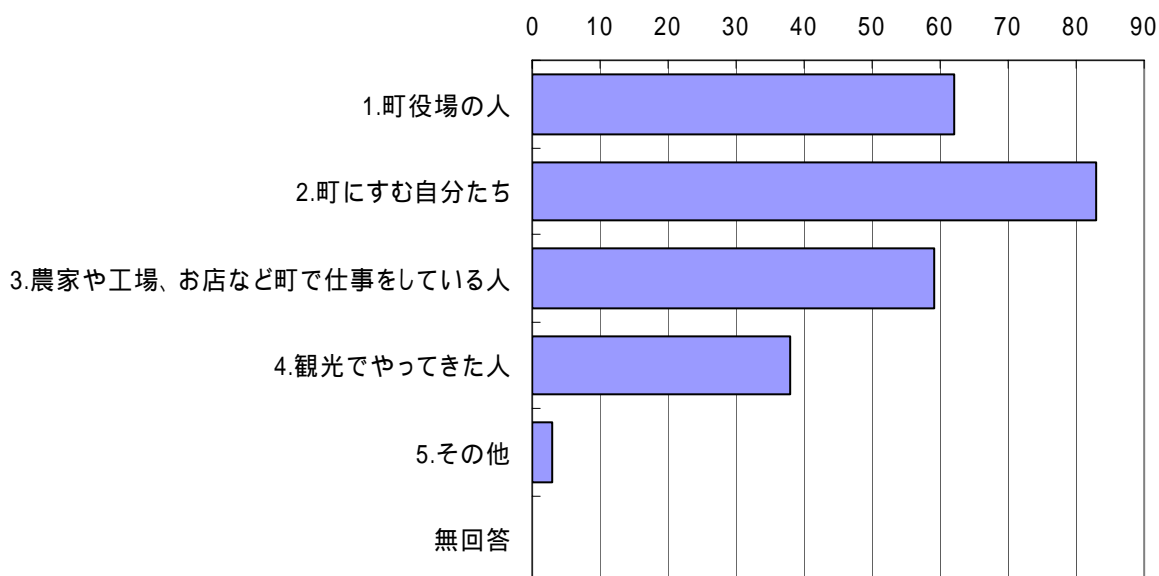
問5 将来の下仁田町はどのような環境になっていたらよいと思いますか？ 当てはまる項目を選び、番号に をつけてください（3つまで）。



[ 結果概要 ]

- 最も多かった回答は、「水や空気がきれいな町になっている」で、回答者の約 69%が回答した。次いで、「自然を大切に、たくさんの生きものが安心してすんでいる」(回答者の約 58%が回答)、「道や公園にごみがなく、きれいな町になっている」(同約 52%)の順であった。
- 「みんながリサイクルに協力し、資源を大切にしている」の回答者は少なめであり、回答者は約 22%であった。

問6 これからの環境を守るためには、だれが積極的に活動することが必要だと思いますか。必要だと思う人すべてに をつけてください。



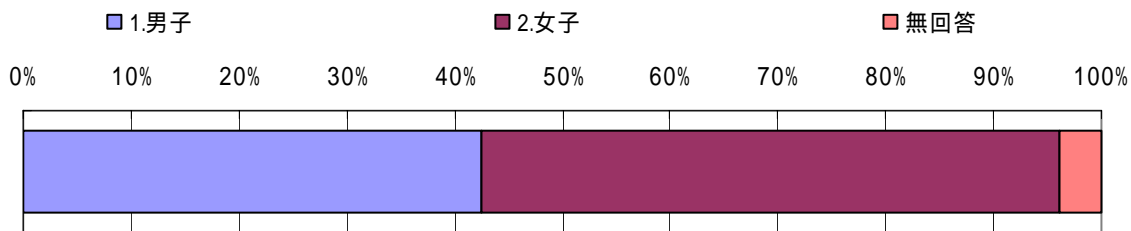
[ 結果概要 ]

- 最も多かった回答は「町にすむ自分たち」で、回答者の約 97%が回答した。次いで、「町役場の人」(約 72%)であった。
- 「観光でやってきた人」の回答は少なめではあるが、回答者のうち約 44%が回答した。

## 2-3. 中学3年生

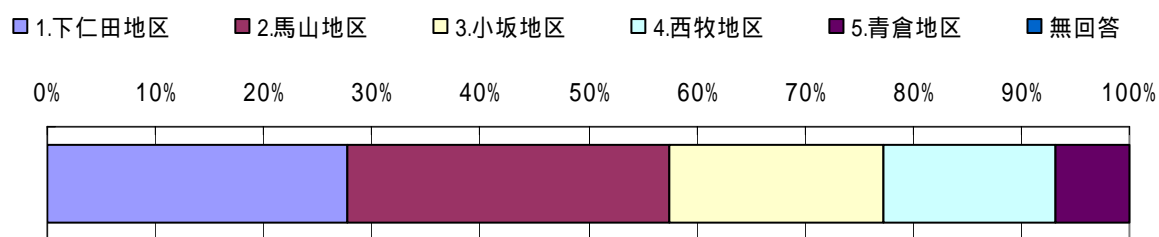
### (1) 回答者属性

性別



- 回答者は、男子が約 56%、女子が約 44%でやや男子の方が多かった。

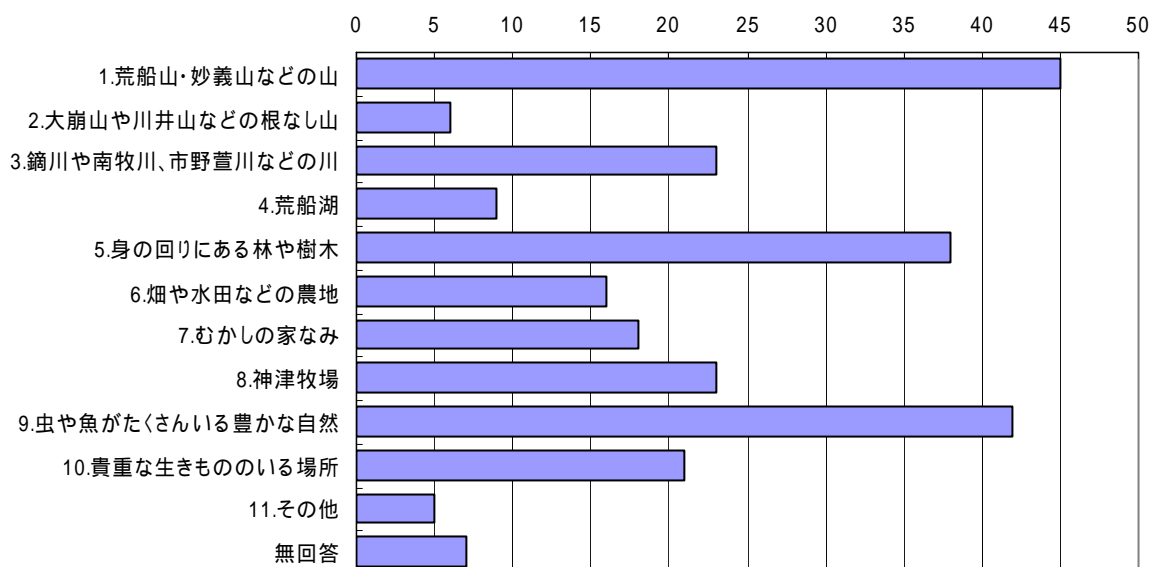
居住地区



- 馬山地区が最も多く、約 30%であった。次いで下仁田地区約 28%であった。

### (2) 設問への回答

問1 下仁田町の環境で「いいな」と思うものを選んで、番号に 印をつけてください。(3つまで)



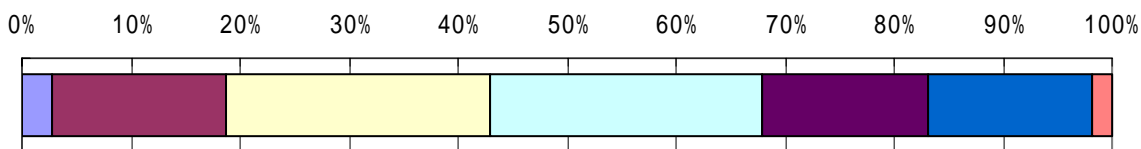
#### [ 結果概要 ]

- 最も回答数が多かったものは、「荒船山・妙義山」であり、回答者の約 48%が挙げた。
- 次いで回答数が多いものは、「虫や魚がたくさんいる豊かな自然」であり、回答者の約 45%が挙げた。



問2 あなたは、ご家族といっしょに省エネルギーなどの環境を守るための取り組みや環境問題について話をすることがありますか。当てはまるものを1つ選び、番号に をつけてください。

- 1.よく話をする。       2.時々話をする。       3.あまり話をしない。       4.ほとんど話をしない。  
 5.全く話をしたことがない。       6.わからない       無回答

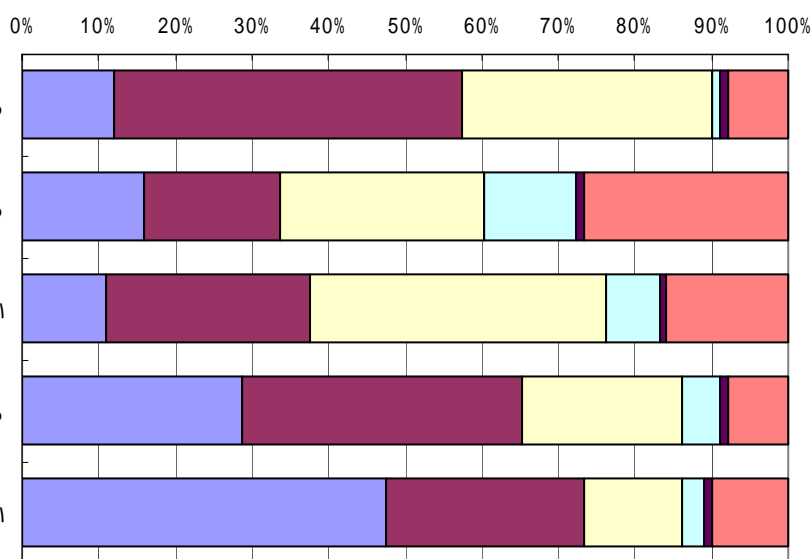


[ 結果概要 ]

- 最も多かった回答は、「ほとんど話をしない」であり、回答者の約 28%にのぼった。「あまり話をしない」との合計は、約 54%であった。
- 「よく話をする」、「時々話をする」の合計は、約 21%であった。

問3 ふだんの生活の中で、環境に対して心がけていることはありますか？ 下のそれぞれの項目について、教えてください。

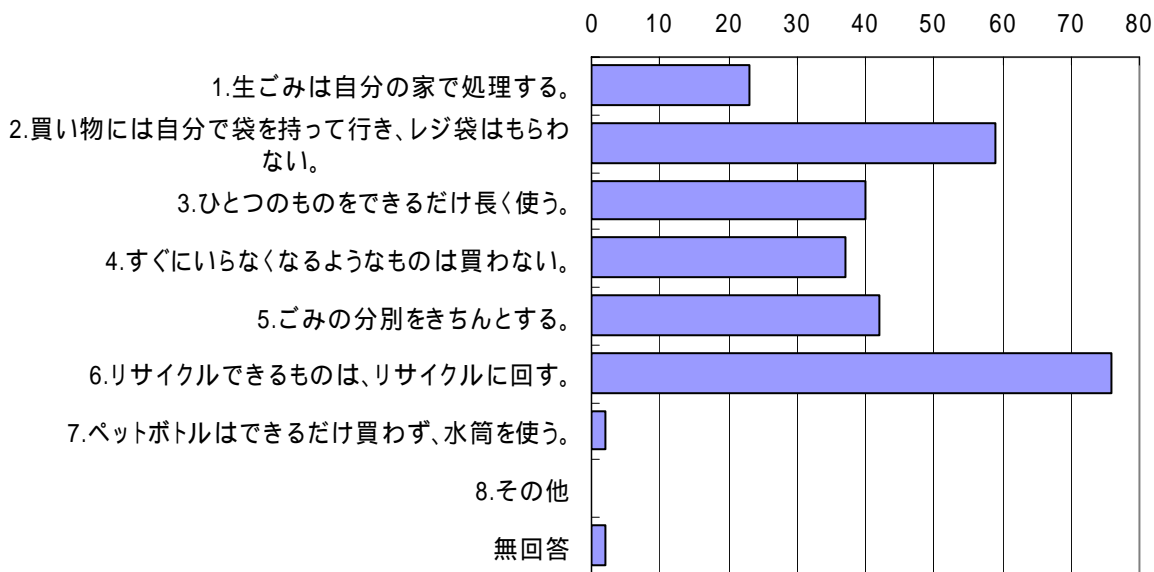
- 1.いつも取り組んでいる       2.だいたい取り組んでいる       3.ときどき取り組んでいる  
 5.まったく取り組んでいない       無回答       4.取り組んでいることもある



[ 結果概要 ]

- 取り組みの度合いは、項目によって傾向がやや異なった。
- 「いつも取り組んでいる」「だいたい取り組んでいる」の合計が最も高かったのは、「ごみを道や公園に捨てない」で、約 73%であった。また、「生きものを大事にする」、「ものを大切にする」が比較的取り組みの度合いが高かった。

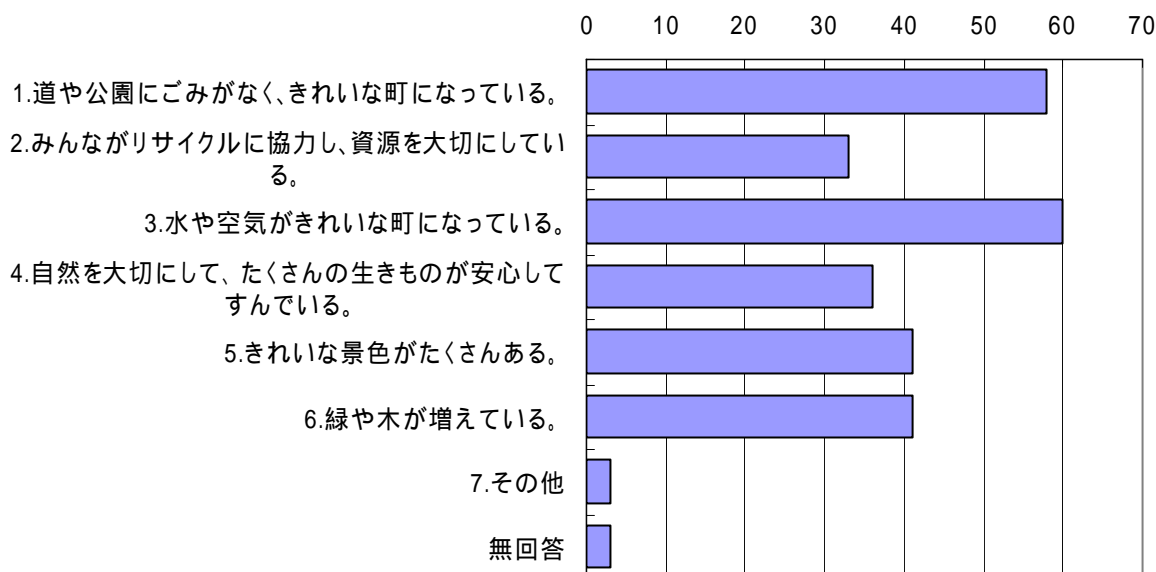
問4 町で出されるごみの処理には、毎年たくさんのお金がかかっています（町民1世帯あたり年間2万7千円）。ごみを減らすためには、何をすればよいと思いますか？（3つまで）



[ 結果概要 ]

- 最も多かった答えは、「リサイクルできるものは、リサイクルに回す」で、回答者の約77%が回答した。次いで多かった回答は「買い物には自分で袋を持って行き、レジ袋はもらわない」であり、回答者の約60%が回答した。
- 一方で、「ペットボトルはできるだけ買わず、水筒を使う」を回答した人は小数であった。

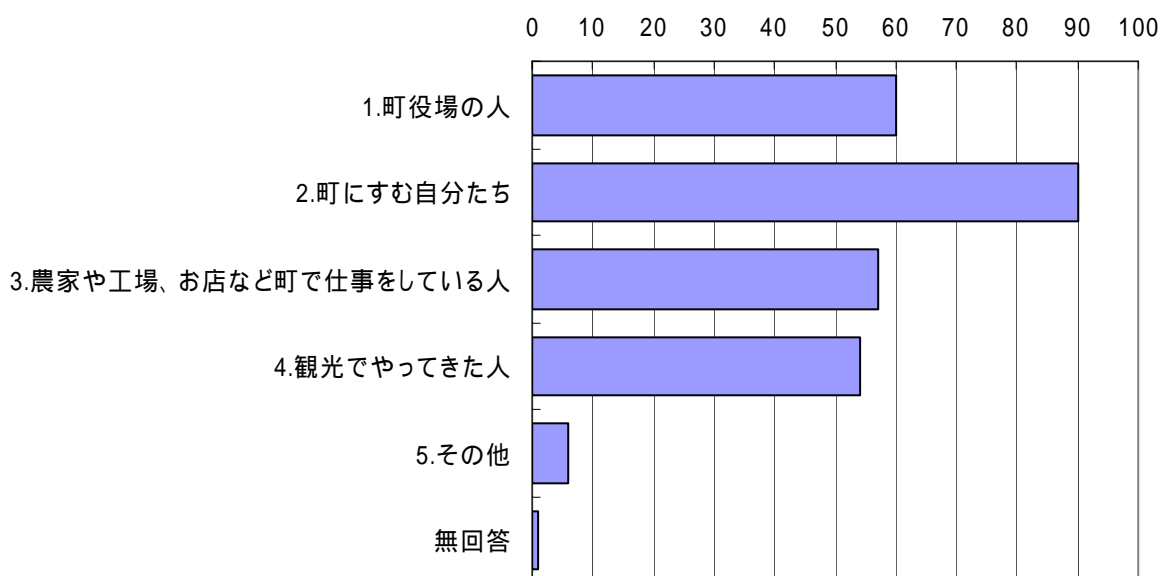
問5 将来の下仁田町はどのような環境になっていたらよいと思いますか？ 当てはまる項目を選び、番号にをつけてください（3つまで）



[ 結果概要 ]

- 最も多かった回答は、「水や空気がきれいな町になっている」で、回答者の約 61%が回答した。次いで多かった回答は、「道や公園にごみがなく、きれいな町になっている」(回答者の約 59%が回答)であった。
- 「みんながリサイクルに協力し、資源を大切にしている」の回答者は少なめであり、回答者は約 34%であった。

問6 これからの環境を守るためには、だれが積極的に活動することが必要だと思いますか。必要だと思う人すべてに をつけてください。



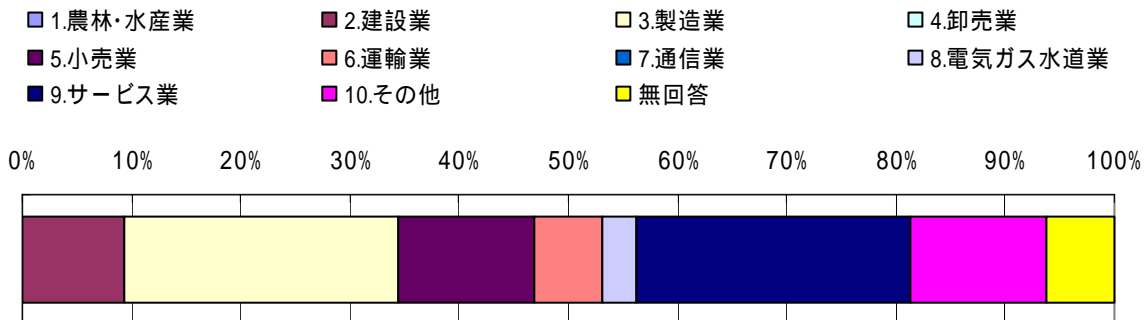
[ 結果概要 ]

- 最も多かった回答は「町にすむ自分たち」で、回答者の約 90%が回答した。次いで、「町役場の人」(約 60%)であった。
- 最も少なかったのは「観光でやってきた人」であるが、回答者の半数以上が回答した。

## 2-4. 事業所

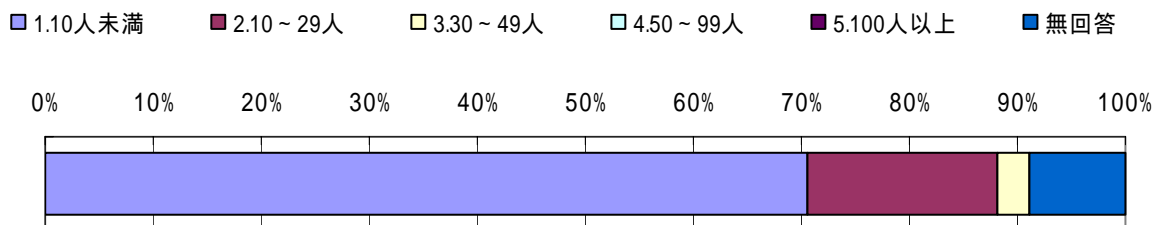
### (1) 回答者属性

#### 業種



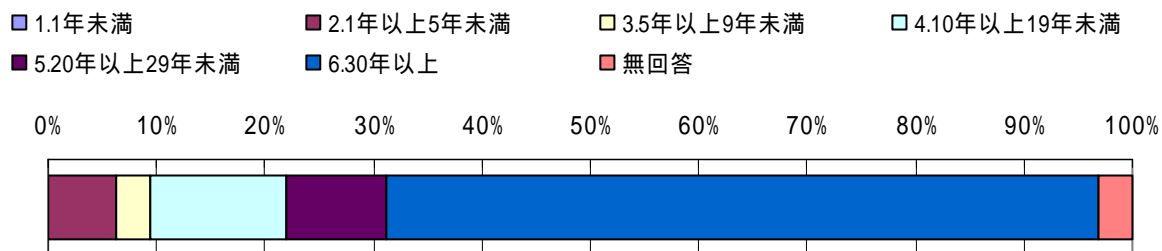
- 製造業、サービス業の割合が高く、それぞれ 25%であった。
- 農林・水産業、卸売業、通信業に該当する事業者の回答はなかった。

#### 従業員数



- 大半は 10 人未満の事業所であり、約 71%を占めた。
- 50 人より多い事業所の回答はなかった。

#### 事業年数

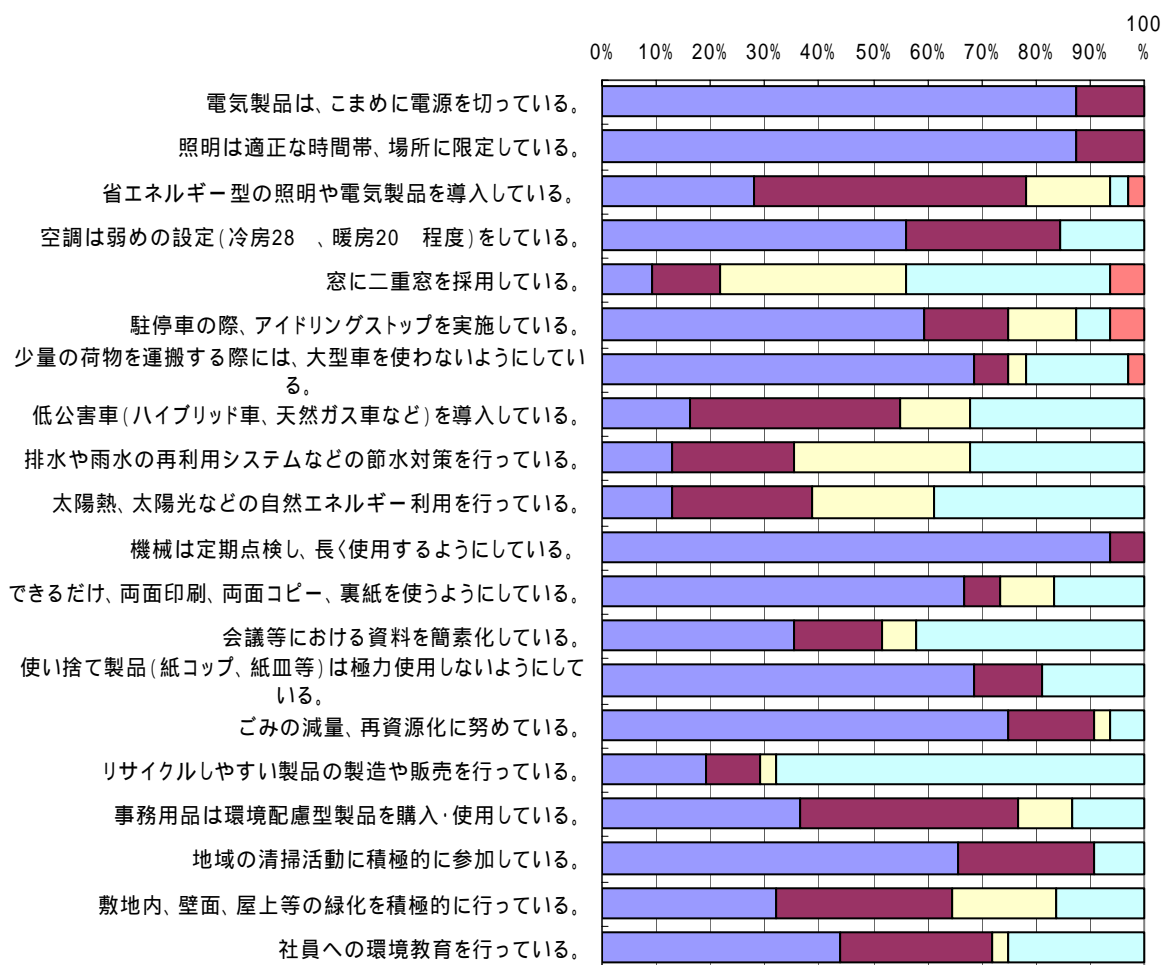


- 30 年以上の事業所が大半を占め、約 66%に上った。次いで、10 年以上 19 年未満の事業所が 13%であった。
- 事業年数が 1 年未満の事業所の回答はなかった。

## (2) 設問への回答

### 問1 貴事業所では環境保全のための以下の項目に取り組んでいますか？

□ 1.取り組んでいる □ 2.今後取り組みたいと考えている □ 3.取り組む予定はない □ 4.該当しない □ 無回答

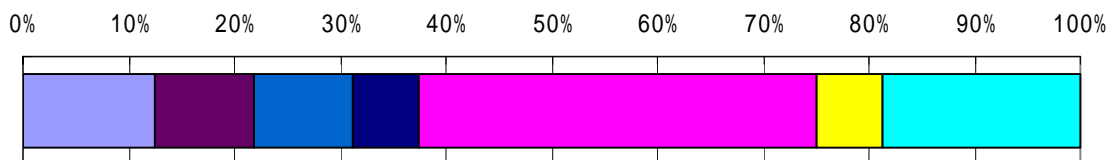


#### [ 結果概要 ]

- 「取り組んでいる」の割合の特に高かった項目は、「電気製品はこまめに電源を切っている」、「照明は適正な時間帯、場所に限定している」、「機械は定期点検し、長く使用するようになっている」であった。
- 逆に「取り組んでいる」が低かった項目は「窓に二重窓を採用している」であるが「取り組む予定がない」の回答も多く、気候的な条件等から必要性が低いことが考えられる。
- 「今後取り組みたいと考えている」が多かった項目は、「省エネルギー型の照明や電気製品の導入」、「低公害車の導入」といった省エネルギー型の機器等への設備更新に関わるものの他、「排水や雨水の再利用」、「太陽熱、太陽光などの自然エネルギー利用」、「敷地内、壁面、屋上等の緑化」など環境利用または環境保全に関するものが多い傾向が見られた。

問2 貴事業所にとって、最も関心の高い環境問題は何ですか？ 1つ選び、その番号に 印をつけてください。また、その理由をお書き下さい。

- 1.地球温暖化
- 2.5.河川や地下水の水質汚濁
- 3.6.騒音や震動
- 4.9.化学物質による環境汚染
- 5.10.廃棄物の処理
- 6.11.開発や整備に伴う自然環境破壊
- 7.無回答

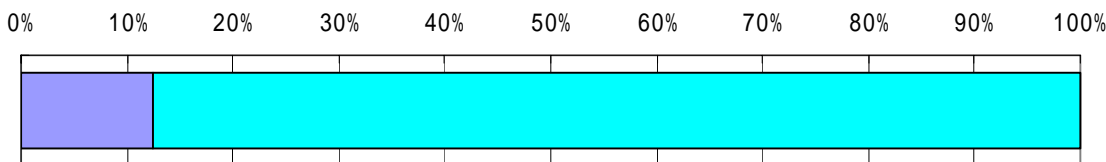


[ 結果概要 ]

- 最も多かったのは、「廃棄物の処理」であり、回答者の約 37%に上った。次いで多かったのは、「地球温暖化」で約 13%であった。
- この設問では無回答が多かったが、設問で挙げた項目が比較的大きな問題が多く、該当しない事業所が存在したためと考えられる。
- 「廃棄物の処理」を挙げた理由としては、廃棄物処理に対する規制強化や、特殊な廃棄物が発生する、産業廃棄物に対する関心の高まりなどがみられた。

問3 貴事業所の環境マネジメントシステム（ISO14001、エコアクション 21 等）の導入状況についておたずねします。

- 1.既に取得している
- 2.取得に向けて準備を進めている
- 3.今後取得したいと考えている
- 4.取得する予定はない
- 5.無回答

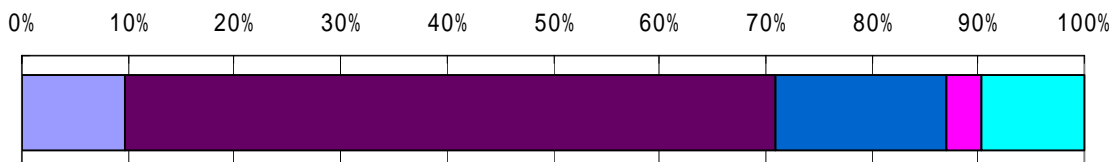


[ 結果概要 ]

- この設問は、約 88%が無回答であった。回答があったのは、「既に取得している」のみであり、4 事業所であった。

問4 貴事業所では、環境への取り組みについて、収益とのバランスの中でどのようにお考えですか？ 貴事業所の考えに最も近いものを1つ選び、その番号に 印をつけてください。

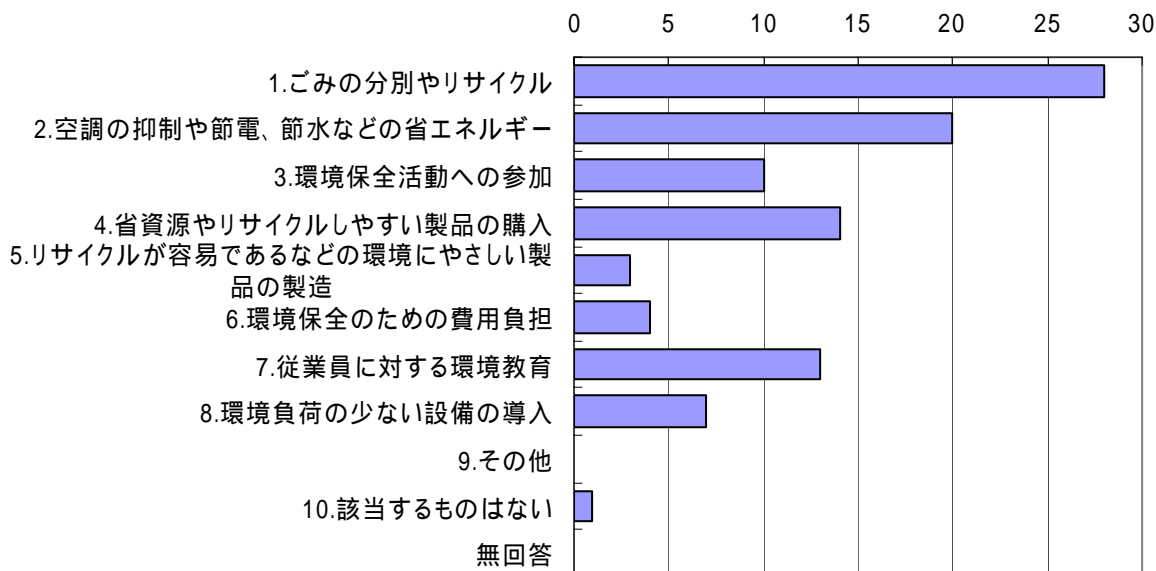
- 1.収益が悪化しても実施すべきである
- 2.収益が悪化しない範囲で実施すべきである
- 3.収益が改善されるのであれば実施すべきである
- 4.重要であるが、収益を優先すべきである
- 5.わからない



[ 結果概要 ]

- 最も多かった回答は、「収益が悪化しない範囲で実施すべき」であり、回答者の約 59%に上った。「収益が悪化しても実施すべき」との合計は 70%を超えており、環境対策の重要性を認識している事業所が多い結果となった。

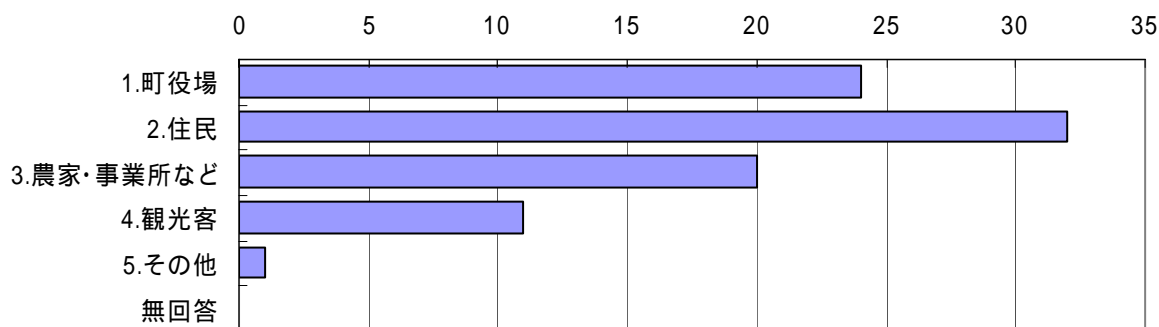
問5 貴事業所は、環境保全のためにどのような取り組みができますか？ 該当する項目をすべて選び、番号に 印をつけてください。



[ 結果概要 ]

- 最も多かった回答は「ごみの分別やりサイクル」で、回答者の約 88%が回答した。ついで、「空調の抑制や節電、節水などの省エネルギー」で、回答者の約 63%であった。費用のかかる項目よりも、取り組みやすい項目が選ばれたと考えられる。
- 一方で、「環境保全のための費用負担」の回答は少なく、費用負担を伴うものに対しては抵抗が強い傾向がうかがえた。

問6 これからの町の環境をより良くしていくためには、だれが積極的に活動することが必要だと思いますか？ 必要だと思う人すべてに をつけてください。



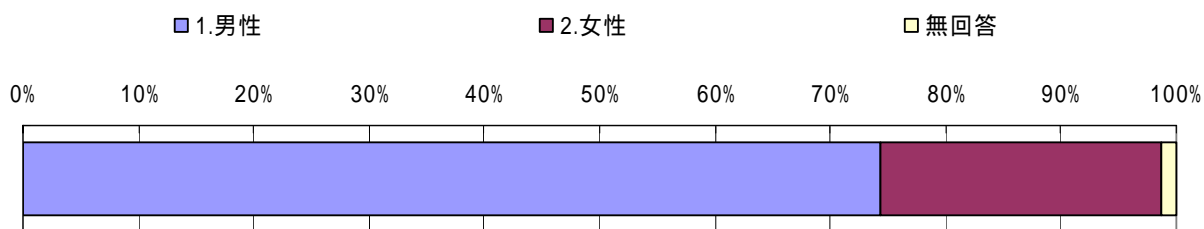
[ 結果概要 ]

- 最も多かった回答は「住民」で、すべての回答者が回答した。ついで、「町役場」で、回答者の約 75%が回答した。「農家・事業所など」は、回答者の約 63%であった。

## 2-5. 町職員

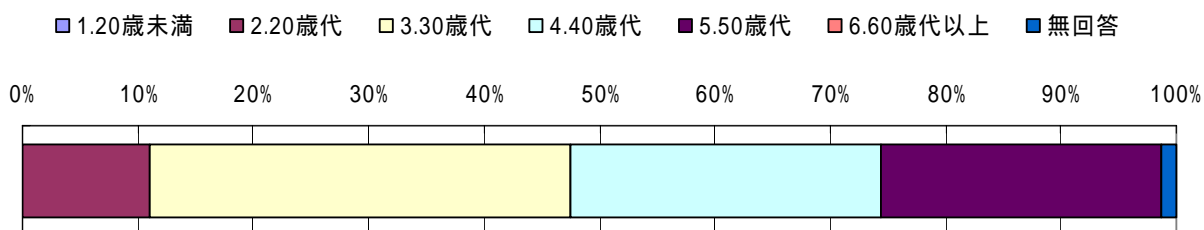
### (1) 回答者属性

性別



- 回答者は、男性が約74%、女性が約24%で、男性が多数であった。

年代

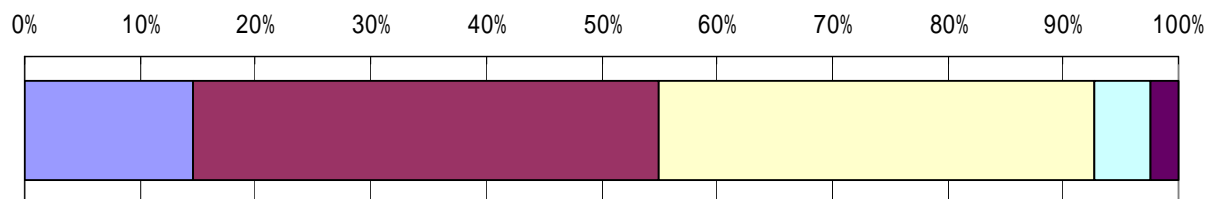


- 「30歳代」が最も多く、回答者の約37%を占めた。次いで、40歳代が約27%であった。
- 「20歳未満」、および「60歳代以上」の回答者はいなかった。

### (2) 設問への回答

**問1** あなたの所属部署(課)での環境への取り組みに対する意識は、どの程度だと考えますか？ 下記のうち最も近いものを1つ選び、番号で記入してください。

- 1.環境に対する取り組みを積極的にすすめており、意識は高い。
- 2.ほどほどに取り組みをすすめており、どちらかといえば高い。
- 3.環境に対する取り組みは一部であり、どちらかといえば低い。
- 4.環境に対する取り組みはほとんどしておらず、意識は低い。
- 5.わからない
- 無回答



#### [ 結果概要 ]

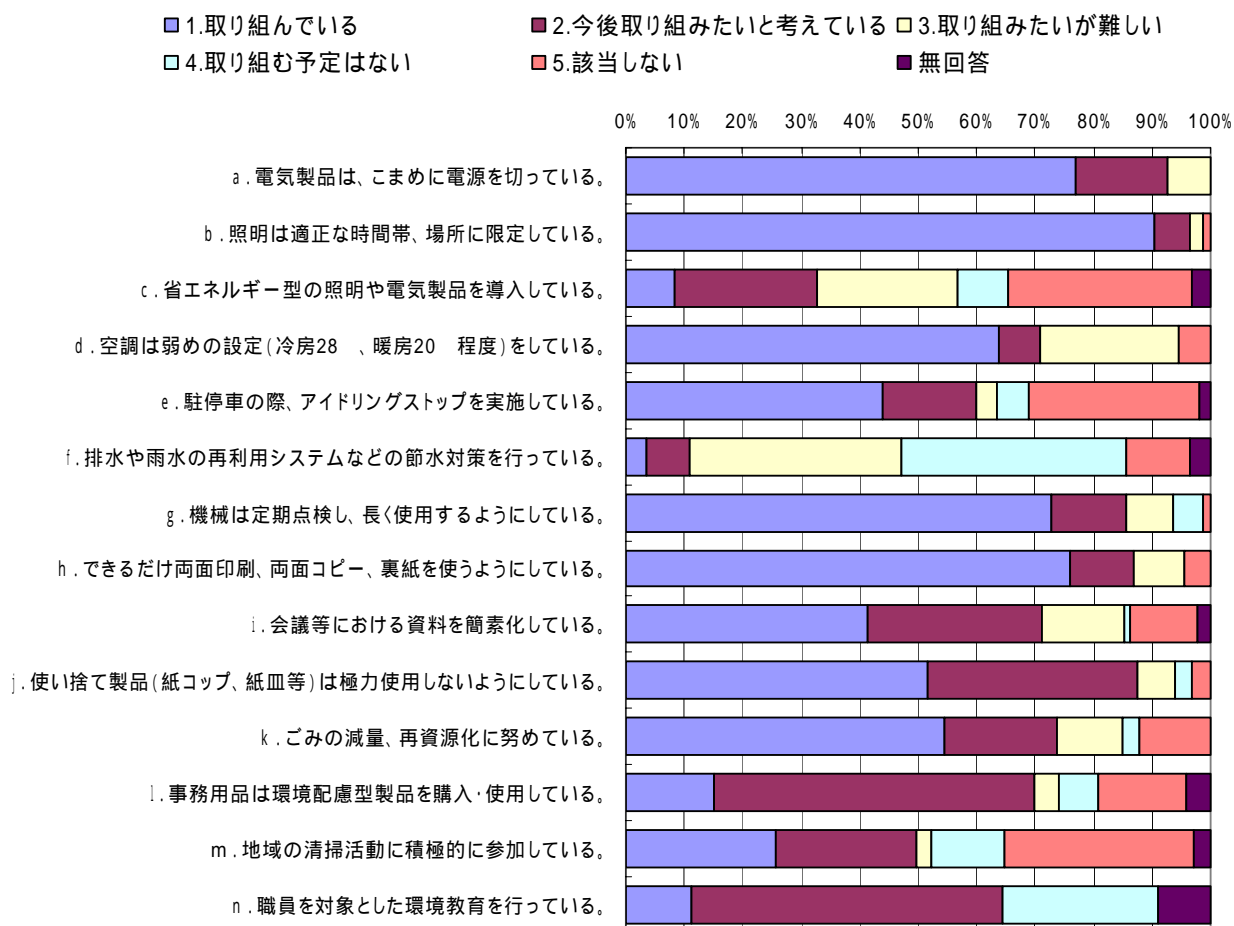
- 「ほどほどに取り組みをすすめており、どちらかといえば高い」と「環境に対する取り組み



は一部であり、どちらかといえば低い」の回答が僅差であり、前者が約 40%、後者が約 39%と僅差であった。

- 「環境に対する取り組みはほとんどしておらず、意識は低い」の回答は少なく、回答者に占める割合は約 5%であった。

**問 2** あなたの所属部署では、環境保全のための以下の a ~ p の項目に取り組んでいますか？ 取り組みの度合いを、下記の 1 ~ 4 から 1つ選び記入してください。



**[ 結果概要 ]**

- 「取り組んでいる」の割合が最も高かった項目は、「照明は適正な時間帯、場所に限定している」であり、90%以上であった。また、「電気製品は、こまめに電源を切っている」、「機械は定期点検し、長く使用するようになっている」、「できるだけ両面印刷、両面コピー、裏紙を使うようになっている」についても取り組んでいる度合いが高く、いずれも 70%を超えていた。
- 一方で、「省エネルギー型の照明や電気製品を導入している」、「事務用品は環境配慮型製品を購入・使用している」、「職員を対象とした環境教育を行っている」などの項目は、取り組んでいる割合が低めであった。設備更新や物品購入など、財政との関わりがあるものについては取り組みの度合いが低い傾向がうかがえる。

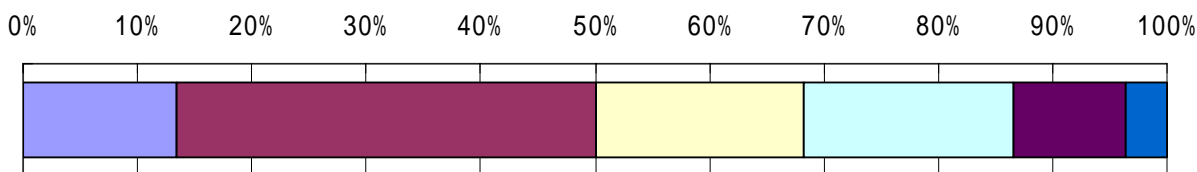
問3 問2で、「取り組みたいが難しい」と1つ以上答えた方にお聞きします。難しいと感じるのは、どのような部分についてですか？ 下記に自由にご記入ください。

[ 結果概要 ]

- 省エネ器具等入れ替えまた設備投資には予算がかかる、設備の改修が必要であり財政的に厳しい、などの財政面から難しいと考える意見が多くみられた。
- また、個人的には改善が必要と意識しながら、組織としての対応が困難といった意見もみられた。

問4 地方自治体の中には、自治体として環境マネジメントシステムを導入するところも出てきています。下仁田町としては、どうすべきと考えますか？ 1つ選び、番号を記入してください。

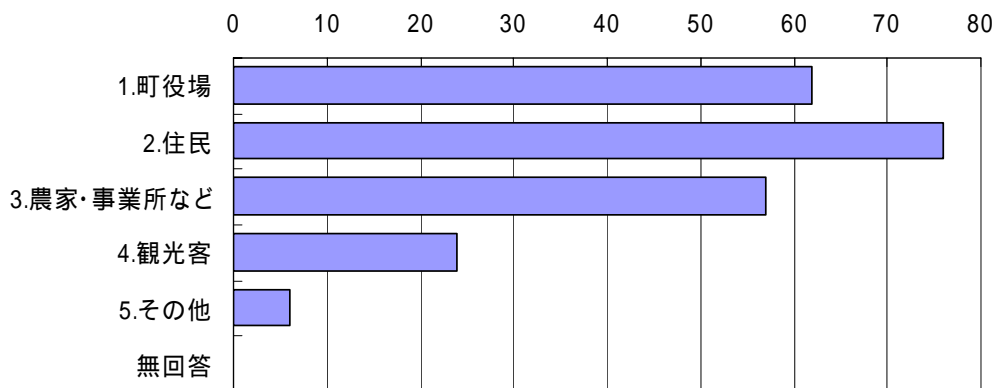
- 1.国際規格であるISO14001の認証取得を目指し、積極的に行動すべきである。
- 2.環境マネジメントシステムは導入すべきであるが、ISO14001でなくても良い。(エコアクション21:環境省策定、など)
- 3.いずれは認証を取得すべきであるが、今はまだその時期ではない。
- 4.認証を取得する必要はない。
- 5.わからない。
- 無回答



[ 結果概要 ]

- 「国際規格である ISO14001 の認証取得を目指し、積極的に行動すべき」、「環境マネジメントシステムは導入すべきであるが、ISO14001 でなくても良い」の回答数合計が 50%であり、それ以外の回答と半々となった。導入に対して積極的な意見および消極的な意見に二分されている様子がうかがえる。

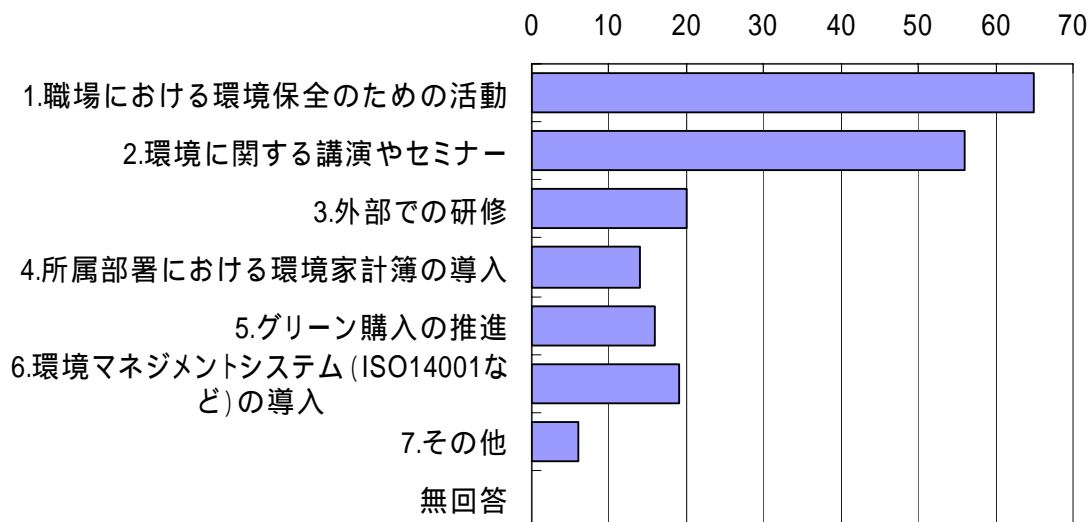
問5 これからの町の環境をより良くしていくためには、だれが主体となって積極的に活動することが望ましいと思いますか？ 該当するものすべての番号を記入してください。



[ 結果概要 ]

- 最も多かった回答は「住民」で、回答者の約 93%が回答した。ついで、「町役場」で、回答者の約 76%が回答した。「農家・事業所など」は、回答者の約 70%であった。

問6 町職員の環境保全に対する意識を向上させるためには、どのような活動または支援が必要だと思いますか？ 該当する項目のすべての番号を記入してください。



[ 結果概要 ]

- 最も多かった回答は「職場における環境保全のための活動」で、回答者の約 79%が回答した。ついで、「環境に関する講演セミナー」で、回答者の約 68%が回答した。
- 「環境マネジメントシステムの導入」を選択した回答者は、回答者全体の約 23%であった。